

事業内容

弊社は造船所や工場等の大型施設での電気工事全般を行っています。

①電気設備工事

電気を使いたい場所で安全に使えるようにするための工事です。

—電力系新設及び改修工事—

電気を通す電線やケーブルを、鉄製や合成樹脂製の管や箱の中を経由させ、施設内の送配電設備から電気を使いたい事務所や工場内まで電気を届けます。電路(電気を通る道)の途中には、事故防止の観点及び使用者の電力抑制のためブレーカーや漏電リレー、それらを収納する分電盤や動力盤なども設置します。これらの新設や改修工事のほかに、実際に電気を使う器具(照明・スピーカー・換気扇など)の取り付けや不要になった電線や機器・電線を通していた配管等の撤去も行います。工事は、事前に現地調査を行い最善の方法を検討します。

—弱電設備における配線工事—

弱電設備とは信号伝達や情報処理を担う設備を指します。例えば、電話回線やLAN、火災報知設備がそれにあたります。この設備での配線工事は、電気を設備に届けるほかに、機器への信号伝達・情報処理を行うための配線も行います。

②電力供給設備のメンテナンス

施設内で安定的に電気を使用できるよう、電気設備のメンテナンスを行います。具体的には・・・

電気を届けるための送配電設備やブレーカー、ケーブル等の点検や清掃を定期的に行います。不具合を発見した際は、安全に電気を使用できる環境への配慮を最優先にお客様のご希望に沿った対処方法を検討します。

工場や造船所の中には数多くの送配電設備や動力盤・制御盤があり、施設内の電力供給を支えています。その供給設備や機器のメンテナンスは、電工会社の大事な仕事のひとつです。

③船舶の高電圧システムの施工

船舶に使用する高圧ケーブルに端末処理を施し、船舶設備に接続する工事を行います。また、船の運航に必要な電気機器の設置も行っています。高圧ケーブルは工場等で多く使用するので、これまで弊社が陸上で培った技術を活用して、これらの工事を行っています。

④電気図面の作成・修正、手書き図面のデータ化

電気図面とは、屋内外の電気の通り道を記したものです。電気がどんなケーブルを伝って、どのような経路で使用する場所まで届くのか、また使用する場所には何があるのか(コンセントや照明など)を知ることができます。電気は壁の内側や天井裏などの簡単に確認できない場所を通して使用する場所まで届けられるため、この図面があることで電気工事をスムーズに開始することができ、不具合発生時にも役立ちます。これらの図面の作成、修正を行います。



弊社を支える電気工事士を紹介します。



中川くん
30代 男性
2005年入社

学生時代に電気工事士免許を取得。同業他社での経験を経て入社。お客様との打ち合わせ・安全管理・実際の工事とすべての業務に携わり、弊社の電気工事士をとりまとめています。



山崎くん
30代 男性
2008年入社

“地元の基幹産業を支える仕事に就きたい。”という思いから新卒入社。入社後に電気工事士免許を取得。電気工事の技術はもとよりコミュニケーション力にも長けており、お客様への対応や後輩の育成にその力を発揮しています。



山本くん
40代 男性
2014年入社

異業種から電気工事未経験で入社。入社後に電気工事士免許を取得。どんな仕事も正確に仕上げます。そのため、担当以外の工事の応援に入ることも多い頼もしい存在です。



中山くん
20代 男性
2022年入社

学生時代に電気工事士免許取得、異業種での経験を経て電気工事未経験で入社。学んだことをすぐに同僚と共有する気配り上手です。多種多様な現場経験を積みながら自身の技術を磨いています。

Q & A



電気工事士の免許を持っていない、もしくは工事未経験でも応募は可能ですか？



応募可能です。弊社ではどちらのケースの社員も在籍しています。彼らは入社後、工事の補助作業から仕事を覚え、電気の基礎知識を学び、後に電気工事士免許や電気工事に役立つ資格を取得しました。



入社前にどのような準備をすれば、仕事に活かすことができますか？



2つご提案します。
・第2種電気工事士試験に関するテキストに触れる
第2種電気工事士は、電気工事の登壇となる資格です。配線図や工事の施工方法など、テキストに掲載されているどの内容も即座に工事の現場で役立つので、興味のある所から読み始めておくと、仕事が目白になると思えます。
・電気工事に使う工具・部材の名前やその用途を覚える
電気工事では沢山の工具や部材を使います。通称や略称で呼ばれているものもあり、入社直後は聞きなれない言葉を耳にすることが多いと思います。でもそれぞれの正式名称や用途を知っていれば、現場での会話や受ける指示から工事の状況や詳細がイメージでき、仕事に早く慣れます。インターネット上に掲載されている工具や材料の紹介や電気工事士のテキストを眺めながら理解を深めておくといいと思います。



電気工事士の将来性についてどのように考えていますか？



電気工事士の仕事は、今後も安定的に需要が見込まれると考えています。電気工事士は、私たちの生活に欠かせない電気を供給する電気設備の新設・改修・補修などの現場で常に一定の需要があります。また今後も私たちの生活を豊かにするための電気を活用した新しい技術が生まれ、それに伴い電気を使用する範囲が増えることが予想されることから電気工事士の活躍の場は広がると考えています。

未来の電気工事士 免許取得に向けて頑張る仲間です。



井上くん
30代 男性
2023年入社

”手に職をつけたい”と異業種から電気工事未経験で入社。持ち前のチャレンジ精神で、電気工事の技術・知識の習得に努めています。先輩達と早く肩を並べて仕事ができるよう、日々頑張っています。



林田くん
20代 男性
2023年入社

異業種から電気工事未経験で入社。明るい性格で現場のみんなを笑顔にします。向上心も強く、一生懸命先輩たちに付いていながら電気工事士を目指しています。

作業風景



—高所作業車を使った照明器具の取替—

高所作業車を使って高さ20m以上の場所で照明器具を取り換えています。大型施設は天井が高いので、照明器具の取替等に高所作業車が活躍します。



—マンホール内での電線管敷設—

マンホール内に電線を保護するための電線管を敷設しています。工場などの大型施設の地下には私たちが住む町と同じようにマンホールがあり、上下水管や地上で電気を使うための電線が通っています。



電気工事士の1日



8:00	10:00	12:00	13:00	15:00	16:45	17:00
朝礼・RKY→電気工事	休憩(約10分)	電気工事	昼休み(60分)	昼礼→電気工事	休憩(約10分)	電気工事
事務所にて当日の現場環境と実施する工事内容から考えられる危険とその回避方法を全員で共有する「RKY」を行い、必要な工具や部材を車に載せ、それぞれの現場へ向かいます。	現場で水分を補給しながら休憩します。(喫煙やトイレもこの時に済ませます。)	工事を再開します。	持参したお弁当、会社で注文するお弁当などで昼食をとり午後に備えます。	作業者全員が集まり、午前中の工事の進捗状況と午後後の予定を確認し、再度現場に向かい午後5時の工事を開始します。	午前同様、現場で休憩します。時には工事担当者(発注会社)も交えてコミュニケーションを図ります。	工事を再開します。
						片付け
						翌日の工事内容を考慮して、現場の片づけ・掃除を行います。事務所に戻ったあとは、持ち帰った工具類の片づけ・ごみの処理を行います。

業務終了